

鎌倉時代の宗教家

～法然・栄西・重源～



ももっち・うらっちと
一緒に調べてみよう!



岡山県マスコット
ももっち



うらっち

はじめに

今回のガイドブックは、「鎌倉時代の宗教家」というタイトルで、岡山県にゆかりの深い三人の宗教家、^{ほうねん ようさい ちょうげん}法然、栄西、重源を紹介します。彼らはいずれも、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍した僧侶で、教科書にも載っている重要な人物ばかりです。

彼らが生きた時代は、古代から中世、貴族社会から武家社会への転換期にあたり、大きな戦乱も起き、社会不安が増大しました。歴史上、そのように社会が不安定な時期には、人々が心のよりどころを求め、宗教活動が盛んになる傾向があります。この時期の日本においても、鎌倉仏教(または鎌倉新仏教)と呼ばれる、新しい仏教の宗派が生まれ、その影響で旧来の仏教諸派の活動も活発になりました。

このガイドブックでは、彼らの業績を紹介しながら、岡山県内に残された足跡をたどってみたいと思います。

※栄西は、「えいさい」とも読まれますが、ここでは「ようさい」としています。

年表

年号(西暦)	出来事	法然	栄西	重源
保安2(1121)				都に生まれる
長承2(1133)		美作国に生まれる		
永治元(1141)			備中国に生まれる	
仁安2(1167)				宋に渡る
仁安3(1168)			宋に渡る 宋から帰国	宋から帰国
承安5(1175)		専修念仏を広め始める		
治承4(1180)	源平の争乱始まる 東大寺が焼失する			
養和元(1181)				東大寺大勧進となる
文治元(1185)	源平の争乱終わる			東大寺大仏開眼供養
文治3(1187)			再び宋へ渡る	
建久2(1191)			宋から帰国	
建久4(1193)	備前国が東大寺 造営料国となる			
建久6(1195)				東大寺大仏殿完成
建久9(1198)		『選択本願念仏集』を著す	『興禅護国論』を著す	
建永元(1206)			東大寺大勧進となる	死去
承元元(1207)		四国へ流される		
建暦元(1211)		都に戻る	『喫茶養生記』を著す	
建暦2(1212)		死去		
建保3(1215)			死去	

ほう ねん
法然

(1133~1212年)



写真提供:岡山県立博物館

法然上人像(広島県尾道市 光明寺所蔵)

法然は、美作国の稲岡荘(現在の久米南町)に、この地の押領使であった漆間時國の子として生まれました。永治元(1141)年に父が稲岡荘の預所・明石定明に襲われて亡くなったことをきっかけに、菩提寺(4ページ参照)に預けられ、仏の道に入りました。彼の非凡な才能を見出した菩提寺の僧・観覚によって比叡山延暦寺(滋賀県)に送られた法然は、そこで天台宗の教えを学びました。さらに修行を続けたのち、承安5(1175)年に京都東山の吉水(現在知恩院のある場所)において、専修念仏の教えを広め始めました。建久9(1198)年には『選択本願念仏集』を著しました。彼の教えは浄土宗といい、貴族だけでなく武士にも広まっていきました。

彼の教えが広まると旧仏教勢力からの反発が強まり、承元(1207)年、専修念仏は停止され、法然は四国へ流罪となり、弟子の親鸞はこの時越後(新潟県)に流されました。まもなく法然は罪を許されましたが、都に戻ることができたのは建暦元(1211)年のことでした。翌年、教えを簡潔に説明した「一枚起請文」を書き残したのち、80才で亡くなりました。

用語解説

押領使…平安時代に設置された治安の維持にあたる官職
 観 覚…法然の母方の叔父にあたる僧侶
 知恩院…浄土宗の中心寺院
 荘 園…貴族や寺院・神社などの有力者が所有した土地のこと

預 所…荘園を管理する職の一つ
 比叡山延暦寺…天台宗の中心寺院(本山といえます)
 専修念仏…ひたすら念仏(南無阿弥陀仏)を唱えること

本山寺 (久米郡美咲町定宗)



本山寺本堂

法然の両親、漆間時国とその妻秦氏の君は、本山寺に対する信仰が厚く、盛んに参詣し祈願したのち、勢至丸（法然の幼い時の名）が生まれたという言い伝えがあります。

本山寺は美作地域を代表する寺院の一つで、天台宗の修行の場として栄え、江戸時代には津山藩主に保護されました。本堂（写真）は、観応元（1350）年に建てられた、寺内では最古、県内では二番目に古い木造建築物です。三重塔は、承応元（1652）年に2代津山藩主森長継が建てた県内最大のもので、本堂、三重塔はいずれも国の重要文化財に指定されています。その他にも、建武2（1335）年建立の宝篋印塔（国指定重要文化財）、常行堂（県指定重要文化財）、絹本著色両界曼荼羅図（県指定重要文化財）など多くの文化財があります。



菩提寺 (勝田郡奈義町高円)



菩提寺のイチョウ

ひょうの せんうしるやまな ぎ さんこくていこうえん

氷ノ山後山那岐山国定公園の区域に指定されている那岐山は、鳥取県との県境に位置する山で、その南側の中腹に菩提寺があります。ここでは、父を亡くした幼い法然が預けられた寺院として知られています。当時、菩提寺には母方の叔父かんがく観覚がいて、彼のもとで法然は仏教を学んだと言われていいます。観覚は法然の非凡な才能を見だして、比叡山延暦寺へ送りだし、法然はそこでさらに修行にはげみました。

菩提寺には国の天然記念物に指定されているイチョウがあります。高さ約40m、幹周り約13m、推定樹齢900年といわれ、岡山県を代表する巨木のひとつで、法然が地面に挿した枝が成長したという言い伝えが残されています。法然ゆかりのイチョウは他に、誕生寺のイチョウ(久米南町指定天然記念物)、かわら河原のイチョウ(勝央町指定天然記念物)、阿弥陀堂のイチョウ(奈義町指定天然記念物)などがあります。





誕生寺(左:誕生寺のイチョウ 右:御影堂)

ほうえん うるまのとぎくに あかし さだあき
保延7(1141)年、法然の父・漆間時国は明石定明に襲われ、この時の傷がもとで亡くなりました。亡くなる際、時国は、子の勢至丸(法然の幼い時の名)に復讐することのないように言い残したと言われてしています。このことが、法然が仏道に入るきっかけになりました。漆間氏の館があった場所に、建久4(1193)年、法然の弟子法力房蓮生(熊谷直実)によって建てられたと伝わるのが誕生寺です。この場所は、法然上人誕生地として、県の史跡に指定されています。境内裏手は、法然の両親の墓所となっていて、その奥には法然の産湯の井戸とされる場所もあります。

本堂にあたる御影堂は、みえいどう げんろく
元禄8(1695)年に建立された国指定重要文化財で、同じく国の重要文化財に指定されている山門には、むなふだ
正徳6(1716)年の棟札が残されています。

しゅうちょうあみ ださんぞんらいごうず せいりょうよう
その他、繡帳阿弥陀三尊来迎図、木造清凉様



産湯の井戸



誕生寺廿五菩薩練供養

釈迦像、木造阿弥陀如来立像、石造宝篋印塔、石造五輪塔が県の重要文化財に指定されています。

また、毎年4月の第3日曜日には、法然の両親を供養するための法要が盛大に行われ、誕生寺廿五菩薩練供養として、県の重要無形民俗文化財に指定されています。これは、誕生寺本堂を極楽浄土に、山門の東約300mにある娑婆堂を現世に見立て、菩薩が法然の両親を極楽浄土に迎える場面を再現したもので、平安時代以来高まった浄土信仰をわかりやすく人々に伝えるために行われた行事に由来するものと考えられます。

用語解説

熊谷直実 …平氏方から源氏方に転じて活躍した武士。出家して法然の弟子となりました。

出家 …僧侶となって仏道に入ること

本堂 …寺院の本尊を安置する中心的な建物のこと

御影堂 …法然の肖像を御影といい、御影を安置するお堂を御影堂といいます。

棟札 …建物を建てたり、修理したりする際に、その建物の由来や関係者、日付などを記した木製の札

極楽浄土 …来世、つまり死後の世界

浄土信仰 …阿弥陀如来の救いを信じ、死後、仏の住む極楽浄土に往くことを願う信仰



栄西 (1141~1215年)



写真提供: 岡山県立博物館

栄西禅師坐像(複製 原品寿福寺蔵)

栄西は、吉備津神社の神職をつとめる賀陽氏の子として生まれました。安養寺で修行したのち、比叡山延暦寺で修行しました。その後、大山寺(鳥取県)で修行し、仁安3(1168)年に宋へ渡り天台山などを訪れていますが、この時、重源(14ページ参照)と出会いました。重源とともに帰国して、備前国、備中国、筑前国(福岡県)などで活躍したのち、文治3(1187)年再び宋へ渡り、禅宗を学びました。彼が学んだ禅宗は、唐僧臨済が始めたもので、臨済宗と呼ばれています。栄西は建久2(1191)年に帰国し、臨済宗を日本に伝え積極的に布教しましたが、比叡山の反対に遭い、布教が禁止されてしまいました。栄西は建久9(1198)年、『興禅護国論』を著し、臨済宗が天台宗と同じように戒律を重視する最澄の教えに背くものではないことを主張しました。彼は鎌倉に下り、鎌倉幕府2代将軍源頼家、北条政子(初代将軍頼朝の妻)らの保護を受けることに成功し、鎌倉に寿福寺、京都には建仁寺が建てられ、臨済宗発展の基礎が築かれました。建永元(1206)年、重源が亡くなると、そのあとを受けて東大寺再建の責任者に任ぜられ、彼のもとで再建事業が続けられました。

また、彼は宋から帰国する際、茶の種を持ち帰って栽培し、茶の栽培法や効用などを記

した『喫茶養生記』を3代将軍源実朝に献上しました。彼の手により茶が日本にもたらされたことから、茶祖とも呼ばれています。

用語解説

- 宋** …10世紀～13世紀の中国の国名。日本との間に正式な国交はありませんでしたが、貿易は盛んに行われました。
- 禅宗** …坐禅を重視する仏教の一派で、インドの僧達磨を祖とします。日本の禅宗には、臨済宗、曹洞宗、黄檗宗があります。
- 戒律** …僧尼が守るべき規範のこと。正式な儀式によって戒律を授かることを受戒といいます。
- 最澄** …唐に渡って天台山で学んだのち、帰国して天台宗を開いた僧侶。

でん か や し やかた あと

伝賀陽氏館跡 (岡山市北区川入)



吉備津神社(9ページ参照)から南西約1kmの場所に、周囲の畑より高くなっている場所があります。ここは吉備津神社の神職をつとめた賀陽氏の館跡と言われ、県の史跡に指定されています。航空写真で見ると、東西約75m、南北約60mの長方形の区画の周りに幅約30mの堀跡があるのがよくわかります。

賀陽氏は、平安時代後期にはこの地の開発領主として経済力を持ち、中央の寺社などに関わりを持っていたと考えられています。栄西は、神職である賀陽氏の出身ですが、当時の吉備津神社では神仏習合が進んでおり、幼いころから仏教にも触れていたため、その後の出家につながったと思われます。



おがやま全県統合型GISより

伝賀陽氏館跡の航空写真

用語解説

- 神職** …神社の祭りや事務に従事する者の総称
- 開発領主** …開墾して田畑の所有者となった領主
- 神仏習合** …日本固有の神道と外来の仏教を結びつけた信仰のこと



吉備津神社 (岡山市北区吉備津)



栄西が生まれた賀陽氏は、吉備津神社の神職^{しんしよく}を代々つとめた一族でした。

吉備津神社は「吉備の中山」西側のふもとにあります。備前と備中の境界にもなっている吉備の中山は、古墳時代前期の大型前方後円墳^{ぜんぽうこうえんふん}（中山茶臼山古墳）が築かれるなど、古くからこの地域の中心的な場所であったと考えられています。いつからこの場所に神社が築かれていたかははっきりしませんが、平安時代には吉備津神社についての記録があり、10世紀半ばには地方の神社としては異例の高い位を授けられました。観応2（1351）年に社殿^{でん}が焼失し、室町幕府3代将軍足利義満^{あしかが よしみつ}の命で再建の工事が始まり、その後応永32（1425）年に完成したのが、現在の吉備津神社本殿です。

本殿・拝殿が国宝に指定されているほか、南随神門・北随神門・御釜殿は国の重要文化財、回廊は県の重要文化財に指定されています。



栄西が出家した安養寺

鎌倉時代に記された『元亨釈書』^{げんこうしゃくしょ}には、仁平元^{にんぺい}（1151）年、栄西が出家して安養寺に入^{ひまう}ったことが記されています。その安養寺については、岡山市北区日近の安養寺^{ひちかい}をあてる説と、倉敷市浅原^{あさばら}の安養寺にあてる説があります。ここでは、この2つの寺院を紹介します。

安養寺（岡山市北区日近）



岡山市北区足守地区の北東、日近にある安養寺は、吉備津神社と同じ旧賀陽郡内^{かや}に位置する寺院で、『元亨釈書』に記された「同郡」が賀陽郡を示すとすれば、栄西が出家した安養寺の可能性が高まります。境内には、栄西手植えと伝えられる菩提^{ぼだい}樹^{じゅ}があります。

用語解説

元亨釈書…^{こかんしれん}虎関師錬が著した仏教の歴史を記した書



安養寺 (倉敷市浅原)



福山合戦で知られる福山城跡(総社市 国指定史跡)の南側にある安養寺は、中世における備中の有力寺院の一つで、多くの毘沙門天像が伝わっていることで知られています。木造毘沙門天立像と木造吉祥天立像が、12世紀に作られたものと考えられており、国の重要文化財に指定されています。

また、安養寺の裏山では平安時代後期の経塚群が見つかっています。経塚群は県の史跡に指定され、出土品の一部は国の重要文化財に指定されています。これらのことから、浅原の安養寺が平安時代後期における、この地域の信仰の中心的な場所であったことがうかがえます。



豆用語解説

福山合戦 … 建武3 (1336)年に、福山城をめぐって起きた合戦

経塚 … お経を紙や粘土板、瓦などに書き写して、地中に埋めた施設



金山寺 (岡山市北区金山寺)

金山寺は、岡山市の市街地北方の山中にある天台宗の寺院です。創建当時の建物が11世紀に焼失したのち、栄西が復興し、天台宗に改宗したと伝えられており、寺には栄西が中国からもたらしたと伝えられる品々も残されています。室町時代に松田氏から日蓮宗への改宗を迫られた際に、これを断つたために焼き打ちにあい、その後、宇喜多氏の援助により、再建されました。

金山寺文書は国の重要文化財、護摩堂、三重塔は県の重要文化財に指定されています。



用語解説 日蓮宗…鎌倉時代後期に日蓮が開いた宗派。法華宗ともいいます。

清和寺 (井原市芳井町下鴨)

清和寺は、小田川支流の鴨川沿いの集落にある臨済宗の寺院です。寺号は、清和上皇がこの地に滞在したことに由来すると伝えられています。栄西が、この地の有力者安井氏の援助によって廃れていた清和寺を再興し、安井寺と改めたと伝えられており、明治時代に再び清和寺に戻されました。



日応寺 (岡山市北区日応寺)



岡山空港の北隣にある日応寺は、宋から帰国後の栄西が、金山寺を復興するなどしたのち、一時拠点としていた寺院と考えられています。日応寺は、山号を勅命山ちよくめいざんといい、これはかつて桓武天皇(在位781~806年)の病氣平癒を祈願して効があったことに由来すると伝えられています。平安時代に天台宗に改宗し、さらに室町時代後期にちれんに日蓮宗に改宗されました。日応寺の木造毘沙門天立像と木造不動明王立像は、鎌倉時代前期に奈良仏師によって制作されたと考えられているもので、いずれも国の重要文化財に指定されています。もとは子島寺こじまであら(奈良県)に安置されていたものと伝えられており、その来歴には、栄西や彼と親交の深かった重源(14ページ参照)が関わっている可能性も考えられます。現在は収蔵庫におさめられていますが、両像がもともと安置されていた番神堂ばんしんどうは、江戸時代に建てられた県の重要文化財です。



豆用語解説

奈良仏師けいは…慶派うんけいともいいます。運慶うんけい、快慶かいけいなどが奈良を中心に活躍しました。



重源 (1121~1206年)



写真提供:岡山県立博物館

重源上人坐像(複製 原品新大仏寺蔵)

重源は、保安2(1121)年、都で貴族(紀氏)の子として生まれました。醍醐寺(京都府)に入り出家し、その後、国内各地で修行しました。仁安2(1167)年、宋に渡り、滞在中に栄西と出会っていません。栄西とともに帰国した重源は、主に高野山(和歌山県)を拠点として活動したのち、彼の最もよく知られた功績である東大寺の再建に携わるようになります。東大寺再建のため、重源に与えられた国の一つが備前国で、そのため備前国には彼の足跡が多く残されています。

東大寺は、源平の争乱における南都焼打ちで大仏殿など多くの建物が焼失してしまいました。このとき、東大

寺再建の責任者に任命されたのが重源でした。彼は、宋人陳和卿の協力を得るなどして、文治元(1185)年に大仏開眼供養を行い、建久6(1195)年には大仏殿を完成させました。

東大寺再建事業は、建築においては、大仏様(天竺様ともいいます)という新しい建築様式を宋からもたらし、彫刻の分野では、運慶・快慶をはじめとする奈良仏師が鎌倉時代に活躍するきっかけを作るなど、新しい文化が生み出されることにつながりました。

用語解説

紀氏…古代以来の有力豪族。

高野山…和歌山県北部にある山です。空海が金剛峯寺を創建して以来、比叡山と並ぶ山岳仏教の中心地として繁栄しました。

南都焼打ち…治承4(1180)年、平重衡(清盛の子)が源氏に味方した興福寺と東大寺を襲い、焼失させた事件

陳和卿…宋出身の工人で、大仏鑄造などで活躍しました。

開眼供養…新しく造った仏像などに眼を入れる儀式

東大寺大仏殿…重源が再建した大仏殿は、永禄10(1567)年の兵火で再び焼失しました。現在の大仏殿は江戸時代に再建されたものです。

万富東大寺瓦窯跡 (岡山市東区瀬戸町万富)

国指定
史跡

東大寺再建のために周防国(山口県)、播磨国(兵庫県)、備前国を与えられた重源は、東大寺で用いる瓦を備前国で生産しました。その瓦を焼いた窯跡が、万富東大寺瓦窯跡です。JR万富駅北方の細長い丘陵上(きゆうりょう)にあり、国の史跡に指定されています。10数基の窯跡のほか、礎(せき)石建物、暗渠排水施設などが見つかっています。写真(16ページ)の軒丸瓦は、直径約20cmで、中央(そ)の大日如来を表す梵字(ぼんじ)が、その外側に「東大寺大仏殿」の文字が配置されています。瓦窯跡の近くを流れる吉井川(よしがいがわ)から見つかったもので、ここで焼かれた瓦が、船で吉井川を下り、瀬戸内海を経由して東大寺まで運ばれたことがわかります。作られた瓦は、東大寺の大仏殿、中門(かいろ)回廊(しょうろう)、南大門(しょうろう)鐘楼に使われたと考えられています。北隣にある阿保田神社(あぼた)は、東大寺の守り神である手向山八幡宮(たむけやまはちまんぐう)を勧請したものと伝



写真提供: 岡山県立博物館

石造獅子(熊野神社所蔵)



東大寺銘軒丸瓦

えられており、境内からは東大寺瓦が出土しています。

また、瓦窯跡から東へ進むと、岡山市と赤磐市の市境があり、その赤磐市側にある熊野神社には、石造の獅子(15ページ写真)が伝えられています。鎌倉時代前期の作と考えられるもので、同時代の一般的な狛犬などは大きく異なる作風で、宋風彫刻の影響が見とれるものです。東大寺再建にあたって、重源が宋の石工を招いたことが知られており、熊野神社の石造獅子の制作との関連も指摘されています。

用語解説

- 軒丸瓦…屋根の軒先に用いられる丸瓦
如来…完全な人格者を意味し、悟りを開いて仏となった者。大日如来、釈迦如来、阿弥陀如来など
梵字…古代インドの言語(サンスクリット語、梵語)の表記に使われた文字の総称



浄土寺 (岡山市中区湯迫)



浄土寺大湯屋跡

重源が、備前国における活動の拠点としていた寺院と伝えられるのが浄土寺です。山門前に、重源が人々に入浴を施すために築いた湯治施設の跡とされる大湯屋跡があります。

ここからは、東大寺瓦も見つかっています。また、万富東大寺瓦窯跡(15ページ参照)の北東にある保木風呂屋遺跡(岡山市東区 岡山市指定史跡)には、石組があり、これも重

源が築いた湯治施設の跡と考えられています。



保木風呂屋遺跡



神力寺跡 (岡山市北区一宮)



神力寺跡の礎石

吉備の中山の東側山裾にある吉備津彦神社(岡山市北区一宮)の少し南で、奈良時代の瓦が出土しており、ここには古代の寺院が建てられていたと考えられています。この寺院が神力寺で、写真の石はその礎石と考えられています。この周辺からは、「東大寺」と記された瓦のほか、東大寺瓦(15ページ参照)と同じ規格で「吉備津宮常行堂」と刻印された瓦も見

つかっており、重源が造営したとされる常行堂がこのあたりにあったと考えられています。



写真提供: 岡山県立博物館

吉備津宮常行堂軒丸瓦(吉備津彦神社所蔵)



所在マップ



- 1 本山寺(P3)**
久米郡美咲町定宗
- 2 菩提寺(P4)**
勝田郡奈義町高円
- 3 法然上人誕生地(P5)**
久米郡久米南町里方
- 4 伝賀陽氏館跡(P8)**
岡山市北区川入
- 5 吉備津神社(P9)**
岡山市北区吉備津
- 6 安養寺(P10)**
岡山市北区日近
- 7 安養寺(P11)**
倉敷市浅原
- 8 金山寺(P12)**
岡山市北区金山寺
- 9 清和寺(P12)**
井原市芳井町下鴨
- 10 日応寺(P13)**
岡山市北区日応寺
- 11 万富東大寺瓦窯跡(P15)**
岡山市東区瀬戸町万富
- 12 浄土寺(P17)**
岡山市中区湯迫
- 13 神力寺跡(P18)**
岡山市北区一宮

発行日 平成 28 年 7 月 11 日

発行 岡山県教育委員会

編集 岡山県教育庁文化財課

〒700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6 電話 086-226-7601(直通)

協力 岡山県立博物館、吉備津彦神社、熊野神社、光明寺、岡山県古代吉備文化財センター、岡山県立瀬戸高等学校、岡山市立芳泉中学校、岡山市立三門小学校